

宮尾正樹教授は、昭和六十二年四月にお茶の水女子大学文教育学部に着任され、以来、本年三月の定年退職に到るまでの三十三年間、本学の中国文学・語学の教育に従事されました。

宮尾教授の専門は、中国近現代文学であり、中国近代文学黎明期における知識人の模索と不安を中心とした文学思想研究、社会言語学との境界的研究、グローバル化及び情報化の急速な進展下における中国文学の変容などを軸に、中国近現代文学における諸問題について、間領域的な課題に取り組んでこられました。また、文学作品や新聞雑誌の電子媒体を文化的語彙研究に利用する先駆的な試みや、本学に客員教授として来日された戴錦華先生の連続講義をまとめた翻訳（『中国映画のジェンダー・ポリティックス』）に見られるように、常に中国近現代文学の最先端の研究を行ってこられました。

その幅広い研究の魅力から、多くの学生が宮尾教授の下で卒業論文を執筆しており、国内外からも多くの大学院生を集め、中国近現代文学に関する博士号取得者を輩出しています。それらの卒業生は本学会にも所属し、今も本学会を支える人材となっています。

宮尾教授のこのようなご指導に報いるべく、本号を退官記念号とし、同教授の多年にわたるご尽力に感謝するとともに、ますますのご健勝を祈念いたします。

令和三年四月

お茶の水女子大学中国文学会

会長 伊藤さとみ

委員長 保坂 律子

委員 水津 有理

新沼 雅代 鈴木 直子

竹野 洋子 橋本 陽介

宮尾正樹教授 略歴・業績一覧

一九五五年七月二四日 長野県伊那市に生まれる

【学歴】高校入学以降

一九七一年四月 長野県立長野高校 入学

一九七二年七月 アメリカ合衆国にAFS交換留学生として留学（一九七三年七月）

一九七五年三月 長野高校卒業

一九七五年四月 東京大学教養学部文科Ⅲ類 入学

一九七七年四月 同 文学部中国文学科 進学

一九七九年三月 同 卒業

一九七九年四月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程 入学

一九八二年三月 同 修了

一九八二年四月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程 進学

一九八四年三月 同 退学

【職歴】

一九八四年四月 東京大学文学部助手（一九八七年三月）

一九八七年四月 お茶の水女子大学文教育学部専任講師（一九九〇年三月）

一九九〇年四月 同 助教授（一九九九年三月）

一九九九年四月 同 教授（二〇〇七年三月）

二〇〇七年四月 同 大学院人間文化創成科学研究科教授（改組による。二〇一五年三月）

二〇一五年四月 同 グローバルリーダーシップ研究所教授（配置換えによる。二〇二一年三月）

二〇一七年九月 大動脈解離により足かけ六箇月休職（二〇一八年二月）

二〇二一年三月 お茶の水女子大学を定年により退職

その他、國學院大學、日本女子大学、東京大学、茨城大学（集中講義）、静岡大学（集中講義）、金沢大学（集中講義）で非常勤講師。

【学会・社会活動】

お茶の水女子大学中国文学会の他、日本中国学会、中国社会文化学会、現代中国学会、東方学会、日本中国語学会会員。

日本中国学会報編集委員（一九八八年～一九八九年）、現代中国学会例会担当理事（一九八八年～二〇〇二年）、現代中国学会関東理事（二〇〇三年～二〇〇五年、二〇〇九年～二〇一二年）、現代中国学会全国理事（二〇〇六年～二〇〇八年）を歴任。

その他、大学評価・学位授与機構審査会専門委員（一九九九年～二〇一三年）、大学入試センター出題部会（二〇〇二年～二〇〇四年、二〇一三年～二〇一五年）、衛星デジタル音楽放送株式会社番組審議委員（一九九七年～二〇〇二年）。

【学内役職等】

文教育学部長（二〇〇七年～二〇〇九年）、大学院比較社会文化学専攻長（二〇〇九年～二〇一一年）、大学院文化科学系長（二〇一一年～二〇一三年）、評議員（二〇〇七年～二〇〇九年、二〇一一年～二〇一三年）、女性支援室長（二〇〇七年～二〇〇九年）、情報処理センター長（二〇一二年～二〇一三年）。
その他、ピアサポート運営委員（二〇〇三年～二〇一三年）、博士後期課程出口戦略WG座長（二〇一一年～二〇一三年）、図書館増改築WG座長（二〇一三年～二〇一五年）、お茶の水女子大学法人化一〇年記念冊子編集委員（二〇一三年～二〇一五年）など。

【受賞】

日本中国学会賞（一九八七年）

【科研費】 研究代表者のみ

ジェンダーの枠組による中国近現代史再検討のための基礎的研究（一般研究B、一九九四年～一九九六年）
中国近代文学に表現された「学校」イデオロギーに関する研究（基盤研究C、一九九九年～二〇〇一年）

【主要業績】

〔著訳書〕

『北京風俗大全』

『藻を刈る男』

『紙の上の月』

羅信耀著、藤井省三らと共訳、平凡社、一九八八年四月

茅盾著、白水紀子らと共訳、監修、JICC出版局、一九九一年六月

北島他著、阪本ちづみらと共訳、監修、解説、JICC出版局、一九九一年九月

『チャイナ・オデッセイ』

『ああ哀しいかな―死と向き合う中国文学』

『中国映画のジェンダー・ポリティクス』

楽黛雲著、丸山昇らと共訳、岩波書店、一九九五年一月

佐藤保と共編、あとがき、汲古書院、二〇〇二年九月

戴錦華著、監訳、御茶の水書房、二〇〇六年一月

〔論文〕

『駱賓基について―想像力の源泉』

『林紓の西洋小説観―古文との関わりにおける』

『新文化運動における張厚載と胡適―旧劇改良論争を中心に』

『「懐旧」試論（一）』

『消えた少女―『人民日報』の女性語彙に関する初歩的検討』

『野草』三一、中国文芸研究会、一九八三年六月

『猫頭鷹』二、新青年読書会、一九八三年一月

『日本中国学会会報』三八、一九八六年一月

『お茶の水女子大学中国文学会報』一一、一九九二年四月

『お茶の水女子大学中国文学会報』一七、一九九八年四月

『葉聖陶の初期作品に現れた学校―煩悶する青年のユートピア』

『日本中国学会創立五十年記念論文集』汲古書院、一九九八年一〇月

『大衆語論争における普通話の問題（二）―瞿秋白と普通話』

『お茶の水女子大学中国文学会報』一九、二〇〇〇年四月

『ハ・ジンの小説における恋愛と結婚―グローバル化の中の中国系作家』

『グローバル化とジェンダー規範に関する研究報告書』二〇〇二年三月

『ネット上の木蘭』

『中国文論失語症論争について』

『お茶の水女子大学中国文学会報』二三、二〇〇四年四月

『お茶の水女子大学中国文学会報』二六、二〇〇七年四月

〔その他〕

〔中国文学研究における大学教員とジェンダー〕

『大学教育とジェンダーⅡ』お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、一九九八年三月
『グローバルゼーションの中の中国（語）文学とジェンダー』

『二〇〇〇年度重点配分経費研究プロジェクト「グローバル化とジェンダー規範」中間報告』、二〇〇一年三月

〔中国人作家の日本留学体験〕
『週刊朝日百科「世界の文学」』一〇九、二〇〇一年八月

〔南山紀要―環境問題に関する中国知識人の提言〕
『中国研究月報』六四九、二〇〇二年三月

〔切入現実的研究方法〕
『汕頭大学学报』二四―一、二〇〇八年一月

『お茶の水女子大学大学院博士後期課程 人文・社会系学生の進路に関する現状と課題』

お茶の水女子大学人文・社会系三専攻合同ワーキング・グループ著、編集代表、二〇一一年三月

『お茶の水女子大学法人化一〇年の歩み―創立一四〇周年記念―』

お茶の水女子大学法人化一〇年記念冊子編集委員会、二〇一五年一月

〔中国語短期研修の成果と課題〕
『お茶の水女子大学中国文学会報』三六、二〇一六年四月

〔キャリア開発特論（基礎編）〕

『グローバルリーダーシップ研究所ニューズレター』一九、授業報告、二〇二〇年一二月

（口頭発表、講演等）

〔大衆語論争の一側面〕
お茶の水女子大学中国文学会発表、一九九五年四月

〔一九五〇年前後の言語問題について〕
お茶の水女子大学中国文学会発表、一九九九年四月

〔中国から見える日本〕
公開講演、長野市、二〇〇一年一月

「交流のむずかしさ―イノセントな好奇心」

シンポジウム 「アジアと世界の文化交流の再検討」 報告、北京大学、二〇〇二年一月

「ネット上の木蘭」

お茶の水女子大学中国文学会発表、二〇〇四年四月

「余華、暴力、死と意味の呪縛」

お茶の水女子大学中国文学会発表、二〇一二年四月

「書く行為、読む行為」

お茶の水女子大学中国文学会発表、二〇一五年四月